

新評論

2021

10

No.317

発行所 © 新評論 2021年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL.03-3202-7391 FAX.03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税込



本書挿画より

「黙食・孤食」「スマホ脳」問題をいっしょに解決!
バラバラの家族を再び結びつける心あたたまる物語

すてきなテーブル

ピーター・レイノルズ／島津やよい 訳

◆ジャンル:4~8歳向け絵本(おともも楽しく読めます)

年少者も重症化する新型コロナウイルス変異株の出現以降、保育園・幼稚園や小学校でも昼時の「黙食」が原則化しはじめました。感染対策として個包装の簡易給食にきりかえる自治体もあり、おしゃべりができない味気なさともあいまって、食欲がわからない子も少なくないようです。いっぽう若年層の「孤食」の問題は、すでに一九八〇年代から指摘されてきました。家庭環境によっては一定の頻度の孤食は避けられませんし、長じてのちは「ひとり飯」が気楽な日もあるでしょう。ただある時期から、食卓をともにしながら会話もなく、めいめい何らかのメディアに夢中という光景が珍しくなくなりました。そしてコロナ禍により、身内・家庭内感染への懸念もあって「各自携帯端末を眺めながらの黙食」実質上の孤食が常態化してはいないでしょうか。子どもたちはいま、食卓で感情や思いを共有する体験を奪われると同時に、装置に依存する生活をしいられようとしています。「スマホ脳」の著者A・ハンセンが示唆するように、技術全体主義のもとで携帯端末がライフラインになってしまうと、画

面上の点滅に人生を支配されかねません。本書は世界的な絵本作家が、こうした時代状況を鋭敏にとらえて描いた「家族の食卓」をめぐる寓話です(原題は「Table」わたしたちの食卓)なので、非血縁関係も含みます)。この家のテーブルは日ごとに存在感を減じており、それに気づいているのはおさない長女だけです。彼女はまたこの現象が、じぶん以外の家族が各々専用の端末をもっていることと関係があるのもわかっています。さて、装置への隷従から解放され、共有と互いへの関心の時間をとりもどすために少女がとった痛快な解決策とは……? 合わせて現代的な主題(コロナ禍・孤食・黙食・スマホ脳)と普遍的な主題(ともに過ごす時間の有限性)がみごとに融合した、今秋最大の話題作です。(しまづ・やよい)

ISBN978-4-7948-1194-3

10月下旬刊

A4変型(252×194mm)上製

四二頁 予一七六〇円

刊 ぼくは にんげん

評 (おもいやりてほしいだね)

好 S・ヴェルデ(文)/P・レイノルズ(絵)

島津やよい訳

著者 Peter H. REYNOLDS 数々のヒット作で知られる世界的絵本作家。邦訳に世界中の「おえかき嫌い」を救った「てん」(あすなろ書房)、世界中の母親の心を打った「ちいさなあなたへ」(文:A・マギー、主婦の友社)、新進気鋭の作家S・ヴェルデとの共著「ぼくは にんげん」など。



原書表紙

ペアやグループでの分担学習・発表・討論とその評価をより実りあるものにするために。今日から実践できる具体的事例が満載!

学習会話を育む

誰かに伝えるために

ジェフ・ズィヤーズ /
北川雅浩・竜田徹・吉田新一郎 訳

◆ジャンル:教育

授業で「ペアやグループでの話し合い」を取り入れたものの、思ったような効果が得られないという声をよく聞きます。次のような体験をされた先生方も少なくないのではないのでしょうか。

● 児童生徒の発言が短すぎる。一言だけで済ませようとする傾向がある。

● ある問題への賛否をめぐって討論をしたら、自分の初めの立場に固執してしまいう生徒がいて、言い争いになってしまった。

● ジグソー学習（長い文章や大きな主題を分担して勉強する方法）やデイベートなどの言語活動に取り組んできたがマンネリ化している。もっと言語活動のレパートリーを広げたい。

● ペアワークやグループ活動の評価がむずかしい。これまで自己評価やグループリック（さまざまな観点や尺度からなる表を用いて学習達成度を測る評価方法）などを活用してきたが、あまりうまくいかなかった。

本書はこうした状況を打開するために、子どもたちのどんな力をどう伸ばせばよいかについて、著者たちの長年にわたる研究成果に基づき、具体的に実践的な内容を提供しています。実に多様な活動が、

児童生徒の実際の会話の記録とともに紹介されていますので、自分の教室ですぐに実践してみたいことでしょう。

本書が提唱する「学習会話」の特徴として、「協力して考えをつくり上げること」との重視が挙げられます。多くの授業では、各自が話し合う前にしっかりとした考えをもつことが求められがちですが、「学習会話」のアプローチでは、まずは考えを出し合い、話し合いを通じて互いに問題点を指摘し合ったり、その考えを支える根拠や事例を集めたりすることが重視されます。本書ではさらに、討論においてクリティカルな思考・判断ができるようにするための議論の方法についても詳しく解説されています。

豊かで確かな学び合いを志向されている方々に、訳者一同、本書を重要な手引きとして、強くお勧めします。

（北川雅浩 熊本大学教員）

ISBN978-4-7918-1195-0 10月下旬刊

四六並製 三二二頁 予二六四〇円

刊 静かな子どもも大切に

評 (内向的な人の最高の力を引き出す)

好 古賀洋一・山崎めぐみ・吉田新一郎 訳

二六四〇円

著者 Jeff ZWIERS スタンフォード大学大学院教育学研究科上級研究員。あらゆる教科領域と学年を対象に、豊かなコミュニケーションと効果的な学習会話を育む授業の開発を主な研究分野とし、本書はその成果を凝縮したものといえる。

Engaging Literate Minds

Developing Children's Social, Emotional,
and Intellectual Lives, K-3



Peter Johnston, Kathy Champoux,
Andrea Hartwig, Sarah Helmer, Merry Komar,
Tara Krueger, Laurie McCarthy

原書表紙

読まされる・書かされる授業から「子ども自身が作家となって
書きたいものを書き、本にする」授業へ! 米国発国語教育の最前線

国語の未来は「本づくり」

子どもの主体性と社会性を大切にする授業とは?

ピーター・ジョンストン

K・シャンポー/A・ハートウィグ/S・ヘルマー/M・コマル/T・クルーガー/L・マカーシー
マーク・クリスチャンソン+吉田新一郎 訳

◆ジャンル:国語教育

日本の学校で、子どもたちは夢中で国語を学んでいるでしょうか?

本書はアメリカの「本づくり」を通じた小学校低学年の読み書き教育を紹介したもので、未来の日本の国語教育がどうあるべきかを考える上でたくさんヒントを与えてくれます。

私は一九八〇年代に日米の公立小学校で数年ずつ学びましたが、どちらの国でも読むことと書くことは先生に一方的にやらされるものでした。指定された教科書や本を読んでテストを受け、指示された主題で作文を書いて先生に成績をつけてもらう、という流れです。あなたはどうでしたか?

そして、現在の日本の読み書き(国語)教育はどうでしょうか? 私自身の英語の授業もそうですが、まだまだ教師主導の授業が一般的で、多くの子どもは受動的な学びに終始しています。しかし、それでよいのでしょうか? 子どもたちの意欲や能力を最大限に引き出すにはどうすべきでしょうか?

この本に一つの答えがあります。十年ほど前に私は「ワークショップ形式」で書くことを教えるライターズ・ワークショップ(日本語では「作家の時間」と

いう教え方を知り、教育観が大きく変わりました。この教え方はアメリカではコロンビア大学のプロジェクトを中心に多くの小学校で導入されています(詳しくは「増補版 作家の時間」および社会科学に應用した「社会科ワークショップ」をどうぞ!)

本書に登場する子どもたちは、自身が学びの主導権を握り、「作家」として主体的に考え、自分が書きたい作品/本を自発的につくりながら読み書きを学びます。イメージできますか?

原書の対象はアメリカの教師ですが、紹介されている子どもたちの作品や本づくりのプロセス、そして主体性と社会性を育てる方法は日本の教育者にも十分伝わると思います。

ぜひ本書を通して、日本の読み書き教育の未来を探求してください。

(Mark CHRISTIANSON 慶應義塾横浜初等部英語科教員)

ISBN978-4-7948-1196-7

11月上旬刊

四六並製 三〇〇頁 予二六四〇円

刊評好
オープニングマインド
「子どもの心をひらく授業」
P・ジョンストン/吉田新一郎 訳 二七五〇円

著者代表 Peter JOHNSTON ニュージーランドで小学校教諭を務めた後、アメリカ・イリノイ大学大学院で博士号を取得。現在はニューヨーク州立大学名誉教授。邦訳既刊に吉田新一郎訳「オープニングマインド 子どもの心をひらく授業」がある。

「価値を否定された人々」

中野智世・木畑和子・梅原秀元・紀愛子

〔ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」〕

加害犠牲者の両面からこの事象を解明し、過去と地続きの「今」を逆照射する。

四六上製 三三六頁 三三〇〇円



最新刊

ISBN978-4-7948-1192-9

善のはかなさ

T・トドロフ 編(テキスト収集及びコメント) / 小野 潮訳

〔ブルガリアにおけるユダヤ人救出〕

無力感を克服した人々の行動・感情はいかにして「善」を到来させたのか。

四六上製 二四八頁 三三〇〇円



「週刊読書人」書評

ISBN978-4-7948-1180-6

太陽はきつとどこかで輝いている

M・グルエンバウム+T・ハサクロウイ / 林 幸子・酒井佑子訳

〔ホロコーストの記憶〕 人類は残虐行為にうち勝つことができるかと教えてくれる感動の物語(M・デユカキス、元ササチーセラ州知事)。

四六並製 四一六頁 二七五〇円



「週刊読書人」書評

ISBN978-4-7948-1183-7

改訂新版 テレジンの子どもたちから

林 幸子 編著

〔ナチスに隠れて出された雑誌「MEDEM」より〕 極限状態の中で子どもたちが残した表現。ロングセラー待望の新版。

A5並製 二五六頁カラー口絵八頁 二六四〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1184-4

フォトジャーナリストが撮った世界の現実

川畑嘉文

〔無関心のすぐそばにある人生〕 「光の当たることのない人々」の側に立ち、地を這い続ける著者渾身の問題提起の書。

四六並製 二六八頁 二四二〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1176-9

オランダ・ミラクル

松岡洋子

〔人と地域の「力」を信じる高齢者福祉〕 「その人の幸福」に立脚する高齢者福祉の世界最先端を詳細報告!

四六並製 四〇〇頁 三七四〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1190-5

ひょうろく 「兵六」

柴山雅都

〔風を感じるこだわりの居酒屋〕 愛され続ける居酒屋の歴史・秘話・魅力を3代目亭主が語り尽くす。

四六並製 二四〇頁 二二〇〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1179-0

増補版 現代社会用語集

入江公康

〔「社会」を学びたい若者のバイブル、初版後3年間の激動とコロナ禍をふまえた最新キーワードを追補した待望の新版。〕

四六変型並製 二三八頁 一八七〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1188-2

幼児から民主主義

E・アルネール&S・ソレマンノ
伊集守直・光橋 翠訳

〔スウェーデンの保育実践に学ぶ〕

政治への諦念と権威主義を斥け、
参加の意識を育む保育実践の手引き。

四六並製 二四四頁 二二〇〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1191-2

挫折ポイント

A・チエイン・バーリン&S・メイジックノ
福田ステイプ・利久・吉田新一郎訳

〔逆転の発想で「無関心」と「やる気ゼロ」をなくす〕

「学びは必ず挫折する」という前提から教室を変革する具体策。

四六並製 二六八頁 二六四〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1189-9

プロジェクト学習とは

S・ボス+J・ラーマーノ
池田匡史・吉田新一郎訳

〔地域や世界につながる教室〕

教育における公平性を実現する
「プロジェクト学習」の実践法を詳説。

四六並製 四〇〇頁 二九七〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1182-0

社会科ワークショップ

富田明宏・西田雅史・吉田新一郎

〔自立した学び手を育てる教え方・学び方〕

主体的に学ぶワークショップ形式で教室が生き生きと変貌。

四六並製 三六四頁 二六四〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1186-8

ピア・フィードバック

S・サック・シュタインノ
田中理沙・山本佐江・吉田新一郎訳

〔ICTも活用した生徒主体の学び方〕

成果物や発表への意見・評価の反映で授業、人間関係、教室が一変！

四六並製 一三六頁 二二〇〇円



最新刊

ISBN978-4-7948-1193-6

学校図書館をハックする

K・A・ホルズワイス+S・エヴァンスノ
松田ユリ子・桑田てるみ・吉田新一郎訳

〔学びのハブになるための10の方法〕

学校図書館のポテンシャルを最大限に活かすための実践的ハック集。

四六並製 二六四頁 二六四〇円



〔学校図書館〕書評

ISBN978-4-7948-1174-5

ぼくのなかの木

「リーナ・ルウケン(文・絵)ノ鳥津やよい訳

自然とともにある人間の生を、はじける色彩の層で豊かに描く。自然・生命・環境について考えるのに最適の絵本。

A4変上製 五四頁 一九八〇円



NHKラジオ「マイあさ」紹介

ISBN978-4-7948-1181-3

まちがいないよ

「リーナ・ルウケン(文・絵)ノ鳥津やよい訳

子どもはみんなアーティスト！想像力と絵を描く喜びをやさしく温かくときはなつ、現代版「てん」日本上陸！

A4変上製 五四頁 一九八〇円



好評刊

A4変型(254×210mm)

ISBN978-4-7948-1172-1

松田道雄『等話』——平等な会話が、あなたの人生と社会を変える

おしゃべりの力と意義 問う

■評者 稲村理紗(まちづくりファシリテーター)

本書のタイトルである「等話」という言葉は、教育者である著者松田道雄氏(山形市出身、尚綱学院大教授)の着想から生まれた造語である。

「対等な会話」を略して「等話」と名付け、「問いかけ合う会話」すなわち「平等な会話」についての意義を問いかける。

松田氏が「等話」という考えに至る出来事は、駄菓子屋のおばあちゃんと小学生の会話であった。年齢や立場を超え、何気ないおしゃべりでお互いに安心感や元気を与え合う光景に、松田氏は会話のもつ力の根源を見る。そして、自らが身を置く学校教育の現

場では補えていなかった「相互通行的で相互行為的な人間関係」のあり方を会話によって取り戻すため、「だがしや楽校」という実践活動を始め。地域の多様な人々が「遊びと学びの屋台」を開き、互いに体験しながら会話を楽しむ場だ。

本書では他にも、大学の授業や社会教育施設での実践、ソクラテスをはじめとした先達の言葉からの気づきを松田氏独自の感性で融合・編集し、会話の本質について「問い」という形で読者に提示する。

「等話」の心がけは至ってシンプルだ。相手に関心を持ち、

『山形新聞』2021年5月5日

短く話して、自己完結せず相手に問いかける。問いを重ねることで「相手の中にいる自分、自分の中にいる相手」の存在が浮かび上がり、誰もがともに同じ社会に生きる対等で共生的な存在であることを認識し合う。「等話」による新たな気づきや学びが、自己変革やひいては社会変革へとつながっていく。このような人と人の「育みあい」から創造される社会が松田氏の目指す姿だ。

松田氏はさまざま視点から「あなたはどうかですか?」と読者に問いかける。問いかけを通じ、読み手それぞれが

自己反省や自己探究の思考を巡らせる。本書を読むことですでに「等話」が始まっているのだ。私自身、より良い自分や未来を創る一歩は自身が発する何気ない一言なのだと気づかされ、日頃の会話を省みるとともに、心にポツと希望の灯りがともる読後感であった。さて、あなたはどうかだろうか?

とうわ 等話

松田道雄

「平等な会話が、あなたの人生と社会を変える」互いに問いかけ合う平等な会話II等話を今こそ! 四六並製 二四四頁 二二〇〇円

「先端教育」書評

ISBN978-4-7948-1173-8



今こそ 会話の人間学

本を売る

本を大事にする

この3年間、専務理事をしながら店舗の選書に携わっています。選書は1980年代に関東の大学生協で店長を3年間務めて以来で、早く若い職員に引き継がねばと思っています。80年代当時の日常的な業務は、売上スリップの管理、他の書店の品揃えの勉強、日販の物流倉庫(王子)・店売(水道橋)訪問と仕入のほか、各出版社の新刊案内や新聞書評のチェックなどでした。まだ取次に発注書を郵送していた頃で、ファクシミリが普及し始め、急ぎの注文は王子の注文課にFAXで発注するようになりだした時代です。スリップは毎月100社ほどへ送付し、出版社への新刊発注も月40社程度は行っていたと思います。いまや販売データはPOSで収集、取次や大学生協のシステムで発注や定期改正、新刊の予約などができますから、隔世の感があります。何と言っても出版社の営業担当の方とメールで迅速に情報交換できるようになったのが革命的かもしれません。

現在全国の大学生協で毎年実施している「読書マラソン」は、私が1982年に企画・実施した「読んだ読んだWチャンス」という夏休みの多読コンクールが原型です。読んだ本の書誌情報と短文のコメントを申込書に記載し、店舗に持っ

てくると15%引きで本が買え、さらに多読の上位者を表彰するという企画でした。1位はたしか89冊を読破した農学部の一学生だったと記憶しています。「読書は嫌いです。勉強のために読みました」というコメントが印象的でした。あるいは教育学部2年生の「少ないと笑ってください。この企画があったのでチャレンジしました。10冊ですが」の一言。このお二人の言葉は、書籍を仕事とする上でも大事にしています。またこの年の2月からは「後輩へ薦める1冊」と題して卒業生優待セールを行い、夏休み前には文庫・新書に「推薦文の帯をつける」企画も行っていました。「読んだ読んだ」はそれらの販売促進策でもありました。

そして今は、「本を大事にする」出版と流通の仕組みを願っています。1980年代は、返品にあたり書名や雑誌名を手書きで起票する必要があり、新刊の点数も今より少なく、長く陳列していたように思います。毎日洪水のように新刊が出る現在、難しい課題ではありますが、書店としては「本を大事に売る努力をする」という原点を忘れないようにしたいところです。また、新刊は吟味して出版する、返品期限を長くする(たとえば常備は基本2年)、物流による汚損やコストを減らすなど、業界全体で取り組むべき課題も多いのではないかと考えています。

九州大学生協専務理事 巢内秀則

本誌表示価格はすべて税込です。

書評日誌(8・23~9・17)

書評 紹介 関連記事

- 8・23 ④東洋経済ONLINE「ライティング・ワークショップ」(田中光夫)
9・3 ④週刊読書人「太陽はきつとどこかで輝いている」(細見和之)
9・5 ④フランチャイズチャンネル(YouTube)「日本の法人フラ

ンチャイジー」(竹村義宏・林尚弘)

- 9・17 ④週刊読書人「善のはかなさ」(早尾貴紀)

2021秋号 ④この本読んで!『はくのかなかの木』

[2019年12月 ④経済科学通信「経済学のパラレルワールド」(佐野聖香)]

経済学のパラレルワールド

岡本哲史・小池洋一編著

〔入門・異端派総合アプローチ〕

マルクスやケインズに発する反

新古典派の最新理論を懇切に解説。

A5並製 五二〇頁 三八五〇円



日本の法人フランチャイジー

川端基夫

〔消費経済の知られざる担い手〕 丹念

な実地調査でベールに包まれてきたその

実態を初めて詳細に解明する意欲作。

A5上製 三二八頁 三〇八〇円

〔フランチャイズチャンネル〕紹介
ISBN978-4-7948-1178-3



本を読む

スウェーデンの

小学校社会科の教科書を読む

公民分野の授業をする際、教科

書に書かれた内容と、子どもたち

の学びの姿勢に距離があるなあと

感じ、悩んだことがありました。

この本の(考えよう!)のコーナー

に掲げられた問いは、子どもにと

っても大人にとっても思わず思考

に誘われるようなものばかりでし

た。これらの質問を参考に公民分

野の授業をつくっていくと良さそ

うだ、というヒントをたくさんも

らいました。(ふじみ野市 義務

教育学校教諭 馬野友之 38歳)

歴史をする

「歴史」とは何かについての一般

的な捉え方を一八〇度転換し、新

しい角度から考える面白い試みだ

と思う。私も教員としてこの手の

研究を少しずつ進めており、興味

がある。

(藤沢市 教員 千葉馨 26歳)

地球市民の条件

この本には、エコロジ的な観

点からすべての市民が考えるべき

課題、身につけねばならない知識

がたくさん詰め込まれています

(たとえばGDPの概念とその影

響など)。世界各地で人々が「地球

市民」としてなすべきことを見据

え、行動を起こしていることを知

り、視野が広がる思いがしました。

いまなすべきは投票だけではない

とわかりました。多くの人が本書

で勉強してくれることを願います。

(世田谷区 空手指導員 手塚淳

二 46歳)

好評刊

スウェーデンの

小学校社会科の教科書を読む

(日本の大学生は何を感じたのか)

ヨラン・スバネリット

鈴木賢志 明治大学国際日本学専攻木下 編訳

一九八〇年

歴史をする

(生徒をいかに教えるか・学び方とその評価)

L.S.レヴィス ティック+K.C.バートン /

松澤剛・武内温加・吉田新一郎 訳 二六四〇円

地球市民の条件

(人類再生のためのパラダイム)

H.ヘンダーソン / 尾形敬次 訳 三三〇〇円

編集部から

九月一日、内橋克人氏が逝去され

ました。故・佐野誠氏との共編著

『フライン・アメリカは警告する』な

どを通じて、氏の真心、怒り、信

念、批判精神の一端に触れたこと

を胸に、作品を大切に普及してい

く所存です。悲しみと喪失感に癒

えませんが、心からご冥福をお祈

りいたします。▼感染予防が日常化

した昨今、にぎやかな給食の時間

もたのしい集団行事も知らず、マ

スクを外した学友の顔が判別でき

ない子どもたちの様子に、「幼年

期が損なわれているのでは」と不

安を覚える保護者・教員も多いよ

うです。新刊「すてきなテーブル」

はまさにこうした不安や切なさを

希望に編み直すための絵本です。

再び来る冬に備えて、また黙食が

必要となる日の喜びのために、せ

ひ児童生徒とともに一読下さい。

営業部から

▼直近3ヶ月(2021年6月、

8月)弊社の書籍売上ベスト15を

ご紹介致します。

①プロジエクト学習とは

②たった一つを変えるだけ

③ギヴァー 記憶を注ぐ者

④増補版 現代社会用語集

⑤学校図書館をハックする

⑥太陽はきつとどこかで輝いている

⑦歴史をする

⑧静かな子どもも大切にす

⑨社会科ワークシヨップ

⑩善のはかなさ

⑪改訂新版 テレジンの

子どもたちから

⑫ぼくは にんげん

⑬スウェーデンの

小学校社会科の教科書を読む

⑭地球に降り立つ

⑮オーデュボンの鳥

SBC(新評論ブックスクラブ)のご案内

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活

動内容をご紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。

入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいた

だくことに、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。

ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて、

お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。

折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。